

事例 YKK株式会社（富山県黒部市）

- 事業内容：ファスニング・建材・ファスニング加工機械及び建材加工機械等の製造・販売
- 設立：1934年 資本金：119億9,240万500円 従業員44,410名(うち国内17,700名)

YKKは材料開発から製造設備、製品までの一貫生産を強みとするファスナーのトップブランド

サステナビリティを軸とした経営によるCN推進

CN取組の内容

● 2050年CN達成に向けた長期ビジョンの策定

2020年10月に「YKKサステナビリティビジョン2050」を策定。その中でGHG排出量については、2030年までに2018年比でScope1,2で50%削減、Scope3で30%削減を進め、2050年までのCN達成を宣言。2021年度実績（2018年比）はScope1, 2で18.2%減。Scope3で15.1%減を達成。

18%
削減

Scope 1, 2での
温室効果ガス排出量
(基準年2018年比)

世界
11 拠点

再エネ100%で
稼働する工場



太陽光設備

(YKK.USA社 アハム工場)

● ICP*制度の導入

2021年度からICP制度を導入。9,000円/t-CO2で設備投資に伴うCO2排出量を費用換算でき、省エネ設備、太陽光発電等のCN投資の意思決定基準として活用。

ここがポイント

サステナビリティを軸とした経営戦略・体制作り

2021年度よりサステナビリティビジョンの目標達成に向けて社内横断的な委員会を組織し、社内全体でのCNの推進体制を強化。

実行面でもサステナビリティ投資の年度計画（2022年度67億円）を公表するなど経営戦略上のCN投資の位置づけを明示するとともに、ICP制度の導入で費用対効果も見える化することで社全体でのCN推進につなげている。

Scope3削減に向けた取組

2022年度にScope3対策チームを社内の委員会内に新設。サプライチェーン全体の約7割を占めるScope3（特にカテゴリ1：購入した製品サービス）の削減に向け、今後サプライヤーとの協働によるCNの取組を強化していく。

※ICP（インターナルカーボンプライジング）・・・企業が自らのCO2排出に対して内部的に価格付けを行うこと。